

ふるさと講座・自然系

べつかい自然探訪

「シギ・チドリ観察会」のお知らせ！

この時期数多く見られる「シギ・チドリ」を中心とした観察会を行います。タンチョウやオジロワシなども見る事が出来ます。



ミヤコドリ

●日時 平成24年5月13日（日）午前9時～12時

●場所 風蓮湖（集合・解散－郷土資料館）

●講師 別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏

●定員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を5月11日（金）までにご連絡ください。）

●その他 図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも若干貸出しします。

ふるさと講座・歴史系第1回目の様子-4月20日(土)

歴史の道を歩く！江戸時代のツケ～野付通行屋跡・番屋跡遺跡

はじめに野付半島ネイチャーセンターで遺跡についてレクチャーを行いました。その後、遺跡の入口まで車で移動し、片道約2kmを歩きながらオジロワシやタンチョウ・ヒバリ・ヒドリガモなどの野鳥を観察しました。遺跡では、墓石や建物、畑の畝の跡などを観察しました。普段は中々立ち入ることが出来ない場所にあることから、参加した20名のみなさんは、それぞれ、江戸時代の野付を思い浮かべていたようです。



〈参加者の感想〉

- ・ 通行屋まで向かう途中、食器のかけらを見つけ江戸末期にそういう所があったのだと思いをはせロマンを感じました。
- ・ 古地図から江戸時代のニシン漁、通行屋のことが良く分かりました。絵図が見れて良かったです。
- ・ はじめて通行屋まで行くのが大変でしたが、反面途中で色々聞けて大変満足でした。有難う御座いました。
- ・ こういう機会でなければ行けるところに行けたので良かったです。説明も分かりやすく勉強になりました。
- ・ 長年の念願叶い参加！とても興味深くお話も伺いました。野付の自然と歴史の奥深さを堪能しました。

近世の別海を探る 「西別川河口から北」～その7～

トヘンチヒラ

近世文献資料の標記は「トヘンチヒラ」です。

○地名の由来

☆〔トヘンチヒラ〕

・「此處土燕多く住故に此名有。此間遠し（一里餘）。」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)



トヘンチヒラ

トエヒラ

近世文献資料の標記は「トヒカラ」「トヒサカ」「トツヒカラ」「トヒカチ」「トビカラ」「トヒカラ川」「トワヒカラ」「トエヒラ」「トピカラブ」があります。現在の飛雁川です。

○地名の由来

☆〔トビカラ〕・「竹 とる」

『丙寅慶応二年正月吉日万覚帳 安政六未年子モロ地名和解書』

加賀伝蔵 安政6年(1859)

○地勢と建物など

・前期松前藩時代 18世紀後半

「此処平山ツ々キ木アリ砂濱行」

『松前地并東蝦夷地明細記』高橋壮四郎他 寛政9年(1797)

・幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)

「川」『東蝦夷地各場所様子大概書』松前藩 文化5年(1808)

・松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

「此所に川有。幅拾間程、深サ三尺程。」『古人の邑嚙 嘉永七

甲寅年閏七月〔子モロ場所〕』加賀伝蔵 嘉永7年(1854)

・幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

「但小川有 右は盛之時節鱒鮭少々入川に候」

『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政5年(1857)



トエヒラ



シヤマンヘナイ

シヤマンヘナイ

近世文献資料の標記は「シヤマンヘツナイ」「シヤマンベナイ」があります。

○地名の由来

☆〔シヤマンヘナイ〕・「(小川) 此澤目に比目魚多くよる故に號るとかや。」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

別海町郷土資料館だより No.154

発行日 平成24年5月2日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

やっと春めいてきましたが、やや日照不足ではないでしょうか？ はや5月と桜の季節になってきました。先月はふるさと講座、出前講座、埋蔵文化財調査と外勤続きでした。決していやという訳ではないのですが、年のせいかなかなか、疲れが抜けなくなってきているようです。(K.I)